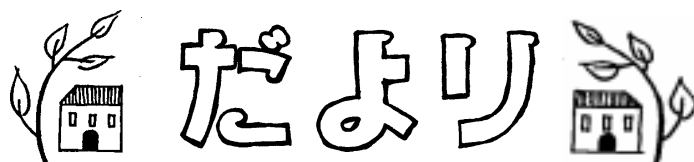


# ネパリ・バザーロ



ベルダレルネーヨ通信

第 16 号

1998 年 2 月

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンディクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。

立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取り組めたらというのが私たちの願いです。母体となるボランティア・グループ（NGO）であるベルダレルネーヨ（ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会）のトレード部門として 1992 年から活動しています。

1998 年 2 月からは、直営店「ベルダ」をオープンし第三世界からの品々をご紹介します。



荷を背負って河を渡る山の民・・・阿部修さん画

## 目 次

<特集> フェアトレードのお店

「ベルダ」オープン

魚谷早苗・春山洋子・土屋完二・・・2

「生産者をたずねて」 その5

- マハグティ - 常に底辺の女性と

共に歩んで

土屋春代・・・6

「実り大きい日本での体験」

チャンドラさんのレポートほか

太田昌治・・・8

「4度目の村訪問記」

久田智子・・・10

「あ、これ不思議」

「あ、これ新しい」 廣田麻紀子・・・11

お知らせ・編集後記・・・12

!!

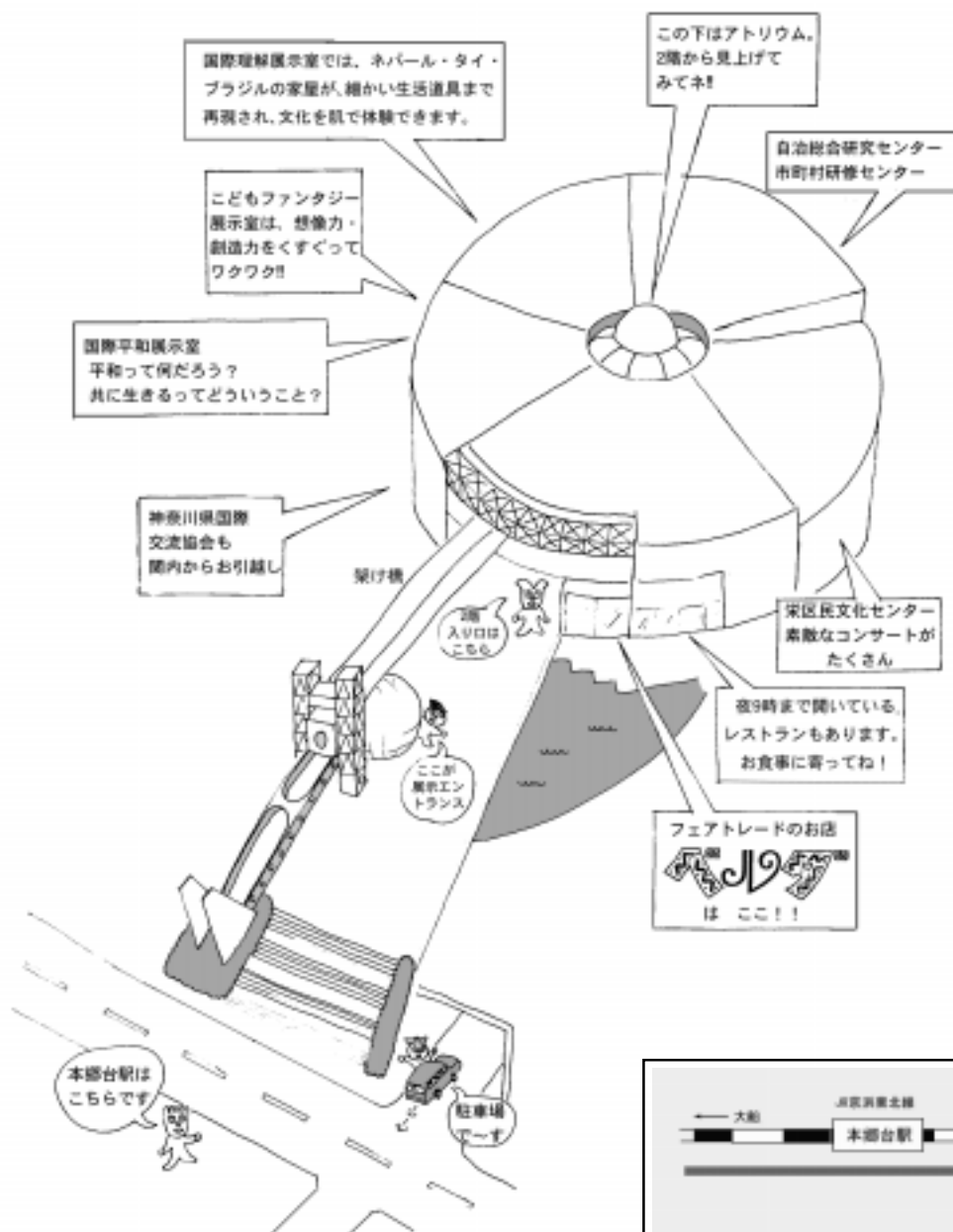
営業時間 AM9:30 ~ PM7:00  
休日 月曜日(祝日は営業) 年末年始  
住所 〒247-0007  
横浜市栄区小菅ヶ谷町  
1丁目2番地1号  
電話 045-890-1147  
FAX 045-890-1148



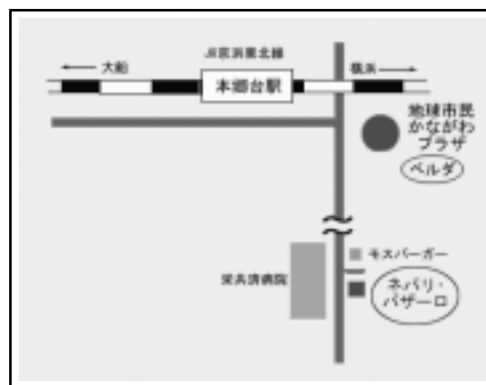
• s ʌ ʌ ʏ æ ɔ æ !

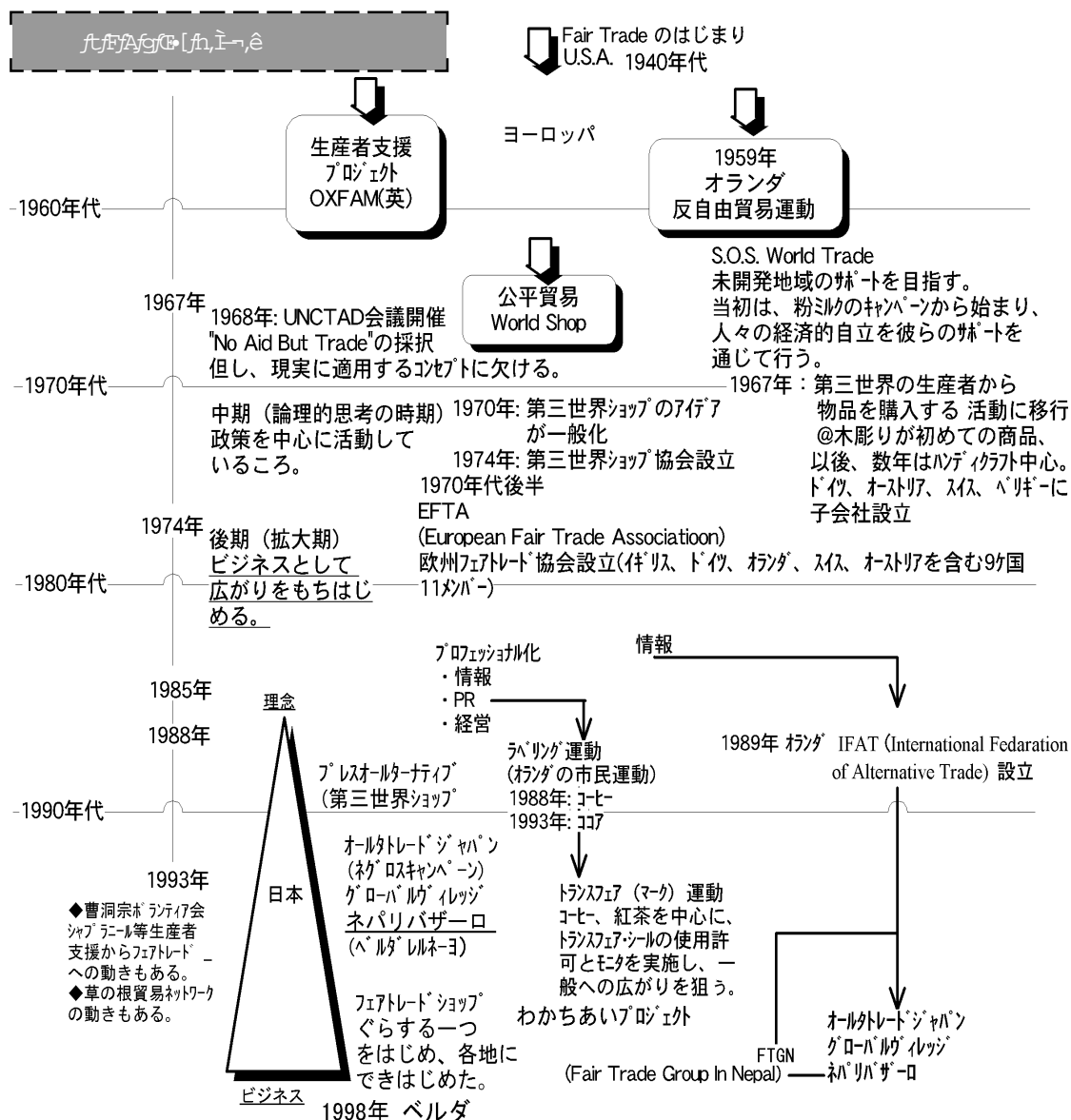


# 地球市民かながわプラザ



このほか、「情報フォーラム(図書資料室)」「映像ライブラリー(ビデオ資料室)」「料理室」様々な打ち合わせに利用できる「ラウンジ」、多目的に利用できる「プラザホール」などがあります。





フェアトレードは、1940年代にアメリカでオルタナティブ・トレード（もう一つの形の貿易）組織として、NGO活動の中から始まりました。1967年までは「はじまりの時代」で、開発援助活動が中心のころです。第三世界から物品を購入し、販売する活動にしても、自立には経済的問題の解決が重要と意識するのはその後半です。1974年から1985年は、生産者の状況や情報を付加し、消費者の理解を広げた時代です。ここから、社会の構造的変革の基礎、動きがでてきました。環境、女性、貿易のネットワーク化、第三世界の自らの改善の動きなどです。理念を尊重し、実践しようとした時代です。1970年から1980年代前半は、ビジネスとして広がりをもち始める時代に入りますが、同時に、理念を守る貿易の難しさに直面した時代です。それは、理念を守るが故に財政破綻を来したことです。例えば、1984年には、ABAL FAIR TRADEが10年間の活動の後に破綻。1991年には、BANKRUPTCY of S.I.I.が15年の活動の後に破綻しています。これらの経験を経て、生産者を含め、資本を規模に合わせて充実する必要性が認識されました。以後、プロフェッショナル化への動きは、より広がりを期待してラベルによる標準化を与える運動と、お互いの情報とより財政体質、理念に規定を設けて実効性のあるネットワークの場の提供を与える協会への動きとなって、今日に至っています。

## マハグティの現状

生産者を訪ねて その5

### - MAHAGUTHI - 常に底辺の女性と共に歩んで 土屋 春代

ネパールの主なフェアトレード団体がネットワーク(FTGN)を組み、向上を目指して活動していることは前回の通信でも触れたが、その7団体の1つ、マハグティともネパリ設立以来の長い付き合いになる。カトマンドウに1店、パタンには2店の直営店と事務所&ワークショップがある。

#### マハグティの歴史

その古い歴史は、マハトマ・ガンディーに辿り着く。若き日、ガンディーと共に過ごしたネパール人、トゥルシ・メハール氏はその影響から75年前貧しい女性の経済状態を引き上げようと、マハグティを設立した。ネパールで最も古いNGOである。

更に、トゥルシ・メハール氏とガンディーの門弟達は1972年にトゥルシ・メハール・アシュラムをカトマンドウに開いた。

目的は、寡婦や夫に捨てられ生活手段を無くした女性や、最底辺の女性達とその子ども達に避難所として、食べ物、衣類、教育等、健康で安全に過ごせる環境を与えること。

そして技術を身につけ仕事を持つことが、他者の支配から逃れ自立する途と、ガンディーが奨励した糸紡ぎと機織りの訓練を2年間で受け、子どもはSLC(大学入学資格試験、10年間基礎教育を受けた後受験できる)を終えるまでいられる。現在約20人の女性と100人の子どもがいる。1984年、その販路開拓とアシュラムの資金づくりを目的として、マーケティングのNGOマハグティをOXFAM(イギリスのNGO)の援助で設立した。

昨年の決算・活動報告書を見るとここ2、3年の落ち込みはひどい。一昨年より売り上げで500万円、20%も落ちている。

最大の販売先だったOXFAM等の欧米のNGOが民間会社との価格競争でシェアを下げ、オーダーがなくなったため売り上げが大きくダウンした。

マハグティ自身のワークショップで作った物を売るだけでなく、販売を代行していた小さな生産者グループも100から74に減らした。設立以来13年間マネージャーを務めるスレンドラ・サヒさんは"頑張って元に戻すよ"と言ったが。

欧米のNGOやFTO(フェアトレード組織)の購買力が低下している中、日本のマーケットに期待がかかっている。

彼らにしてみれば経済大国日本、遅れてきた国(フェアトレードを始めたのが遅い)として、これから力を発揮すると思われる。

欧米のNGOはこれまで、その方針・目的・効果を支持されマーケットを拡大してきた。現地の技術を高め、製品開発を助け、販路まで、長い年月を掛け、政府とも連携し力を注いできた。

マハグティだけでなく、いろいろなNGOで、日本でいえば青年海外協力隊に当たるボランティアが技術指導、製品開発、組織運営指導などに活躍しているのをみてきた。

そうして質が上がり、市場に出せるようになった時、一般のビジネスとの厳しい競争に巻き込まれ苦戦している。

日本はスタートから一般企業との厳しい競争を余儀なくされ、着実に伸びてはいるがマーケットの拡大は遅い。

熱い期待をいつも感じながら、ギャップを意識する。

## スミットラさんのこと

マハグティの敷地内には、事務所の他に幾つかの建物がある。皆古い建物だ。糸や紙を染める所、布を織る所、裁断したり縫製する所、倉庫。保育所もあったが、作業所を広げるため閉鎖した。"なるべく早く再開します。"とサヒさんは請け合った。

アシュラムや他の訓練所で技術を習得した女性達30人が仕事をしている。

今回は木綿の手織り、独特の風合いのネパールじまでスタンドカラーのシャツを注文している。サンプル帳で布を決めると、糸を染め、布を織るところからはじまる。ひとはた250cm前後の布が20日ぐらいで織りあがる。

更に木版で模様を手染めする。裁断する人、縫製する人。工房が活気付く。手の掛かった布が多くの人を経て1枚のシャツに仕上がる。

デザイナーのスミットラさんと持参した新しいパターンの服について打ち合わせをする。パターンが良いと誉めてくれた。

毎回3、4パターンぐらい作って行く。

デザインし、プロのパターンナーに依頼する。

実際にサンプルを仕立ててもらいスタッフで検討し何回か手直しをして出来上がる。

相応しい布が見つからなかったり、コストが合わなかったりと、全て製品化できるわけではないが生産者の技術、仕上げに対する感覚は確実にアップする。

控えめで、誠実なスミットラさん。仕事のことでは、はっきりとものをいい、決して安請け合いをしない。24才と聞いて少し驚いた。

仕事ぶりからして、もっとベテランかと思っていたのだ。

彼女は3年8ヶ月前にマハグティに来た。アイルランドからボランティアとして来て、3年間働いたデザイナーが帰国することになり、後任を探していることを知り応募した。土木工学を専門に学んだ彼女が何故服のデザイナーになれたのか？

父親がインドでトレーニングを受けた後、

ネパールで仕立て屋をしていたので、幼いころから裁断や縫製の仕事になれていた。専門ではなかったが、良い仕事に就くチャンスは少ないので嬉しかったと言う。

入った時受けた8ヶ月のトレーニングでもうしばらくはもつけれど、何か新しいトレーニングを受けなければ仕事の限界が・・・とたちはだかる壁を意識している。

昨年から、横浜市海外交流協会の技術研修生受入制度でネパールから研修生を呼べるようになった。今年はサナ・ハスタカラの女性マネージャー、ロヒニ・シュレスタさんが候補になっているが、スミットラさんの研修もいつか実現するかもしれない。

今回は乾季には珍しく雨のよく降る12月で、寒さが厳しかった。

広い部屋に小さな石油ストーブがひとつあるが、余程でないと思わない。風邪をひいても我慢しているスミットラさんが、寒そうにしている私を見て、火をつけようとしてくれた。

つい遠慮して断った。すぐに後悔したが、やはり付けて下さいとは言い出せなかった。

石造りの古い建物は足元から厳しい寒さが這い上がる。隙間風も容赦ない。



笑顔が魅力的なスミットラさん

## 「実り大きい日本での体験」

横浜で研修のチャンドラさんの  
レポート・受け入れ先の感想

前号で紹介しました、ネパールのフェアトレード団体ネットワークの中心人物で、パタンのサナハスタカラ（フェアトレード・ショップ）のマネージャーであるチャンドラ氏の横浜での8週間に及ぶ研修の感想（抄）と研修先の「コープかながわ」と「ネパリバザーロ」（以下ネパリという）の方々にその時の様子をお聞きました。

＜紙面の都合で、彼のレポートからフェアトレードの研修部分を要約しました＞

### 研修レポート（抜粋）より

私のネパリでの研修は、11月3日から15日まででした。ネパリは私たちネットワークの団体を含め多くの生産者とフェアトレードを行っており、各種手工芸品からコーヒーまで色々な物をネパールから仕入れて日本の市場にそれら売り込み、ネパールの小さな生産者の育成に努力しています。

その扱う金額は、サナハスタカラの売り上げの20%にもなる程大きなものです。

ネパリでの研修は、日本のフェアトレードの組織や運営を学ぶことからフェアトレードに関する日本のマーケットの実情、製品のデザインや品質、包装、輸送、コンピュータを使っの宣伝システムなど幅広い分野になりました。

### 訪問・参加・講演と大忙し

私は、ネパールの手工芸品を扱っているお店をいくつか訪問し、そこでネパール製品に対する日本人顧客の好みや興味、売れる物等を知り参考になりました。また、イベント（東京・横浜）にも参加出来て、そこでもネパールのクラフト製品に対する日本人の反応を知ることが出来ました。

このほか、2度の講演（ネパリの学習会・ミランクラブの定例会）の機会もあり自分達の組織や活動について話すことが出来ました。

更に、ネパリでのコンピュータを使っの

資料作成やテレビかながわの取材から、この2月にオープンする「地球市民かながわプラザ」の見学、ネパールのコーヒーを焙煎している工場訪問など色々な体験が出来、本当に良い勉強になりました。

私のこれらの研修から感じた事は、日本でのフェアトレードマーケットはまだ小さく、その概念は新しいものであること。また、私が日本に来るまでは、日本はお金持ちの国なので全ての日本人はお金持ちであり、私達の作った物はすぐに買って貰えると思っていましたが、違ったこと。日本の市場にも、競争と複雑な流れがあり、物はそう簡単には売れないし、良い品質と適正な価格でなければならないこと、などです。

ネパリを始めフェアトレード団体では、フェアトレードの概念（理解）を拡げること努力している段階で、それは簡単なことではありません。

私達途上国の生産者は、製品の品質やデザインに注意を払うべきと思いました。

そして、私のこの研修がネパリとサナハスタカラの仕事上のつながりを強くする一助になればと思います。

最後になりますが、この研修で大変お世話になった、横浜市海外交流協会・横浜研修センター・コープかながわ・ネパリバザーロの各スタッフの皆様心から御礼申し上げます、本当にお世話になり有り難う御座いました。（文責：太田昌治）



ネパリバザーロの事務所にて



## 研修の現場から ～日本を知り、ネパールを知らせるチャンドラさん～

コープかながわ

組合員活動推進室  
主任 水落 葉子

ネバリバザーロ

スタッフ 廣田 麻紀子

あのニコツとした、人を惹きつけずにはおかない、さわやかな笑顔「チャンドラ・スマイル」はどこに行っても無敵の威力を発揮しました。

店舗でも、組合員が集う催しでも、チャンドラさんはいつも誰かに取り囲まれ、質問攻めに合うのでした「ネパールの食べ物は？」「牛を食べてはいけないのよね？」「どうして日本に来たの？」「いつまでいるの？」何度も、何度も同じ質問をされるのに、少しもいやな顔をしないで「チャンドラ・スマイル」で対応。ネパールとフェアトレード活動のPRも忘れません。

いつのまにか周囲にはチャンドラさんのファンが増えていました。

特に7日間研修した藤沢市の石川店では、若い職員がチャンドラさんを慕い、学生時代に使っていた英語の辞書を引っ張りだしてきて、何とかコミュニケーションをとろうと必死になっていました。

日本語の上達の早いチャンドラさんと彼は、英語と日本語とジェスチャーの入り交じった、端から見るとかなりあやしい会話をしていましたが、心はすっかり通じ合っていたようでした。最終日には、2人とも涙目になりながら別れを惜しんでいました。

もちろん、チャンドラさんが残っていたのは、笑顔だけではありません。私たちの心の中にネパールという国がサナ・ハスタカラの美しい織物のように様々な色合いをもって印象づけられました。

チャンドラさんのネバリ・バザーロでの研修中はパソコン、検品、市場調査といろいろなことに携わってもらいたかったけれども、なにぶん物理的な時間が少なく、どれも駆け足状態だったことが残念でした。

その中で何店かネパリの商品を置いてくださっているお店へ同行した時のことについて少し書いてみたいと思います。

営業の同行だったのでサナから入ってくる商品以外も持っていたため、チャンドラさんがサナの商品を一生懸命紹介しても、サナからの商品を仕入れてもらえなかったり、縫製、色使い、サイズについて非常に細かい要望があったりとなかなかきびしいお店周りだったと思います。

しかし、ネパールの生産者の情報や商品に

についての質問などお店の方にとって生みの声が聞ける絶好の機会とあってなかなかチャンドラさんを帰してもらえなかったりと、刺激があったようで「ネパールに帰ったらまたいろいろ見直すことがあるゾ」と新たな意欲を燃やしていました。

な意欲を燃やしていました。

チャンドラさんにとっては日本の市場でサナの商品はどう扱われているか、何が売れているのか、商品に対しどんな要望があるか、直にお店の人からの話が聞けた最高のチャンスだったと思います。

次回サナからはいつてくる品々の出来が楽しみです。



石川店スタッフとともに。右がチャンドラさん

## 4 度目の村訪問記 パート1

ー必死で着いた村は星いっぱいー

久田 智子

1年振り4度目の村訪問。前は、アルボット村に診療所を作るという村人たちの熱意にエールを送り、トロパシエル村ではあまりの発展ぶりに気後れを感じた訪問だったが今回は、私ひとりの為の訪問計画となった。

同行者は友人でガイド役のP.Kさんとポーター役の親戚のカンツァさん。カトマンズを車で出発し、約2時間でドゥラルガットに到着。途中土砂崩れで道路が半分の所があったものの、いつになく美しく雪化粧したヒマラヤの山々を眺めることができた。

このあたりから、いつも通りでない私のサバイバルな旅が始まっていたのでした。

ここからはラフティングで3時間の川下り。今回はボートをチャーターせず、地元の人が利用するボートに便乗することになった。ところが12時頃に出るはずの便がなく、「歩く？」とのP.Kさんの言葉に私は本気で7時間あまりの道のりを歩くつもりになっていた。しかし結局「大丈夫。すぐ次のが出る」という、いつになるかわからない便を待つことになった。

今回もビショ濡れ

そして2時間半後、ようやくボートの準備が整い、米や小麦、岩塩などの荷物がボートの大半を占める中、その荷物の上に張り付くように乗り込んだ。しかもいつもは用意されるはずのライフジャケットもない。ちょっぴり不安を隠せぬまま、何とか自分の場所を確保し出発。スンコシ川のゆるやかな流れの中、ポカポカ陽気で極楽気分・・・というのも束の間。途中から全身びしょぬれになる程の激流の連続で、地元の男性でさえ悲鳴をあげる程のスリルを楽しみ(?)ながらようやく村への登り口の船付き場に到着。すっかり冷えた体を熱い紅茶で温めたのち、アルボット村めざして登り始めたのはすでに6時近く。

この行程は3回目という気のゆるみか、うっかりライトを別のリュックに入れたまま、カンツァさんが先に持って行ってしまったのが悲劇(?)の始まり。

必死の思いで村に着く

30分も歩くと日本人の私にはそろそろ周囲がうっすらとしか見えなくなり、おまけに一人がやっと通れるくらいの細い道。半分も行かないうちにとうとうやってしまった。一歩踏み出した先に道はなく、右足から体半分ガケ下へ滑り落ちてしまったのだ。少し先を歩いていたP.Kさんも真っ青(・・・だったと思う)。引きずり上げられ危うく難を脱したものの、その頃にはとっぴりと日暮れて私には一歩先すら見えなくなっていた。

ネパール人の彼「月が出てから明るい」とは言うものの、何とその日はペーパームーン。見かねたP.Kさんに手をひかれ、誘導されても何回となく足を踏み外し「生きて村にたどり着けないかも・・・」と本気で思った。冷汗と涙でグショグショになりながら、彼の腕を頼りに必死の思いで村のホームステイ先に着いたのは空に星がまたたく頃。

「よかった！」と思わず二人で大喜びしたことは言うまでもないが、今考えれば日本人女性と手をつなぎ、おまけに泣かせている(?)という状況の中、山奥の小さな村でのP.Kさんの立場は・・・？ すっかり迷惑をかけたことを深く反省しつつ、足の爪2枚が犠牲になっただけで命あることに感謝した第一日目でした。(続)




ホームステイ先の子ども達と




## 「地球市民かながわプラザ」で


市民の手作りイベント開催

本郷台駅前に2月1日オープンしたプラザをご家族で見学してみませんか。地域で活動している国際交流・環境・子ども・途上国支援・草の根貿易など色々なジャンル・色々な方法・色々な顔ぶれの団体(今回は約48)がその活動紹介や一日体験教室(食べ物・着付け・言葉など)を行います。


フェアトレードのお店  もご覧下さい。お待ちしております。

•  U・t・O, e X W v


ちがうって楽しいね、集おう地球の仲間達

 3月28日(土)・29日(日)の

2日間、午前10時から午後5時

 地球市民プラザ1階、ラウンジ・会

議室・展示室・屋外アプローチデッキ

 国際協力支援・環境問題・子供の

教育育成などの活動をパネルやビデオ

・資料で紹介するコーナー、絵画やポ

スターを展示するギャラリー

### < 図書のご紹介 >

「行ってみようあのお店」

フェアトレードの本」

発行：ネバリ・バザー口 定価：509円



智子さんの久々のレポート。村人達が自ら考え、決め、行動しているのを知るのは何よりうれしい。(春代)



今年も調査に力を入れ、情報をたくさんお届けできるように努めます。ご意見もどんどんお寄せ下さい(完二)



ショップのオープン、カタログ発行で待ちに待ったお店がオープン。目が回りそうです。ウ～山が恋しい(麻紀子)



ショップ・通販・イベント・調査…さあ、あなたも共にこの渦に飛び込もう!!お待ちしております。(早苗)



スタッフのパワーに圧倒されています。「ベルダ」でお待ちしております。(洋子)



待ちに待ったお店です。色々な国のものが有ります。楽しみながら協力できます。(昌治)

発行所：ベルダレルネーヨ  
ネバリ・バザー口

247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町274-15

第2中山ビル3階

Tel: 045(891)9939 Fax: 045(893)8254

インターネットホームページ

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

1998年2月発行

編集責任者：太田昌治

編集担当者：土屋春代 土屋完二

廣田麻紀子 魚谷早苗

春山洋子

## ホームの子ども達の近況

ビシュヌさんのホームでは、子ども達は元気で暮らしています。子ども達は更に増えて42名となりましたが、ドイツの支援を受けて裏庭に別棟も建設中です。一時、体調を崩して心配をしていたビシュヌさんも通院を続けて今ではすっかり元気な様子で、訪ねたメンバーも一安心。SLC(高校卒業検定試験)に合格したアルジュン君はカレッジの様子を手紙で伝えてくれました。経理や経済がちょっと難しくて…と苦労しながらも学ぶことの喜びに満ちあふれた文面でした。バスと徒歩での片道50分の通学もものともせず、張り切って毎日通っているようです。

後に続く年下の子どもたちも勇気づけられていることでしょう。

.....

•  A・a・W・„

ベルダレルネーヨ・バザー口では、いつでもボランティアを募集しています。フェアトレードに興味のある方、あなたの力を発揮してください。お待ちしております。ご連絡は、事務所まで。

.....

この通信は、再生紙、エコペーパー100で作られています。